

長野県伊那地域

重点プロジェクト② 林業資源の循環利用に向けた体制整備

重点プロジェクト③ 新たな木材需要の創出

市域の持続可能な林業・木材産業活動の推進に向けて

～伊那市 50 年の森林(もり)ビジョンの実現を目指して～

現状と課題

地域にある山林資源を地域で活用する流れを醸成させるためには川上では路網整備等の生産基盤強化を図る必要があり、また川下においても地域材を市域内で活用するための需要の創出が不可欠である。加えて、川上から川下までの事業者の連携を深めることで木材生産量の増加、流通の効率化や消費者へ市域材の価値を伝えるネットワークの構築が必要である。

取組概要

林業専用道整備等の経営基盤強化を行うとともに、ペレットストーブ等の導入により木材需要を創出。加えて、川上から川下までの事業者や消費者一同に会してマッチングを行うイベントを実施した。

取組の成果・効果

- ・路網整備開設後には近傍森林において森林経営管理制度を活用した森林整備を計画予定。
- ・公共施設へのペレットボイラー等の導入によりペレット製造量が3年間で約 1,000t増加。
- ・川上から川下までの連携として当初は中間土場を設置する構想について検討していたが、既存の流通への影響が大きいことからハード的な体制整備から方向転換。地域内の林業関係者や大手工務店、消費者が一同に会したイベント「森のマッチングデイ」を実施し、24 事業者が当日出店し、多くの家族連れで盛況を博した。マッチングイベントを通して形成された事業者間の連携を今後も生かすため、フォローアップの取り組みを継続していく予定。

取組が進んだ要因

- ・市内の公共施設の暖房等は木質ペレットを燃料とする方針とし、同時に市内のペレット製造工場と連携して生産強化を図っている。
- ・中間土場構想においては、50 年の森林(もり)ビジョン推進委員会など林業・木材産業関係者が参加する組織体があったことからより多くの意見を把握することができた。これにより地域内に求められる機能を再確認することができた。

これから取組む地域へのアドバイス

当地域には様々な規模の林業事業者が活躍しているが、50 年の森林(もり)ビジョンの取り組みを通して、日ごろから行政との繋がりが深い。木材生産に限らず、市民へ森林・林業の意義を伝える取組を通して地域の事業者との繋がりを醸成することが重要と考える。



図1 開設した林業専用道



図2 小学校に導入したペレットストーブ



図3 マッチングデイの様子

【担当】

伊那市役所 50 年の森林(もり)推進室 主任 向山 夏美

【連絡先】

メール: 26268@inacity.jp

電話: 0265-96-8127